

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会  
460-0006 名古屋市中区葵 1-27-32 カイフビル 7階

# HD ニュース

No.37  
2016.5.15

今後の予定／於：事務局会議室

- 5月12日(木)18:30～ 三役会
- 5月17日(火)18:00～ マンション・ビル大規模修繕研究会
- 5月17日(火)19:00～ 研修会
- 5月19日(木)18:30～ 木造技術研究会(休会です)
- 5月19日(木)18:30～ 三役会+欠陥～の会合同会議
- 5月24日(火)18:30～ HD+欠陥～の会合同理事会

## 固定費削減に向けて

副理事長 森 登

当 NPO 法人は、ご存知だと思いますが会員の皆さんの会費収入で運営されています。しかし残念ですが、会員数の減少に伴い、NPO の運営について困難な状況が長年続いています。十分な会員サービスができず、各委員会活動にも支障が出ています。現在の事務所（カイフビル）は旧耐震の建物のままで、ビルオーナーから立ち退きを要求されています。

（2011・03・11 の際、マンション研究会の会合があり、窓から見える道路反対側のビルとの相対変位の大きさを実感しました）

このような状況の中、固定費を削減する為、事務所移転に向けて、検討を始めています。広さは会員皆さんの使い勝手を考慮すると、現事務所程度（20坪ほど）が好ましいのですが、支出を削減する為、半分程度の広さも止むを得ないと考えています。各委員会・研究会への出席状況を見ると、充分成立すると思います。大人数の使用に際しては、別場所のスペースを臨時的に借りるなど、臨機応変に対応すれば良いと思います。低賃料で広めのスペースで、比較的交通の便が良い貸室があります（例えば、ブラザーコミュニケーションスペースなど）。

固定費削減を行い、その分を会員サービスに充て

る。例えば HP の改訂が長年進んでいません。タイムリーな事業案内が出来ず、周知・広報に支障が出ています。活動報告が出来ず、情報発信に支障が出ています。ホームページを見た一般の来場者も、さぞガッカリしたことだと想像します。これではいけない。ホームページ改訂に要する費用を捻出できず、結果会員のボランティアに頼らざるを得ない、無料のフリーソフトを使用せざるを得ない、といった好ましくない、使い勝手の悪い状況が生まれています。この点を改善したいものです。

又、事業活動として講演会を実施しましたが、支出を抑えるため、会員がボランティア講師とならざるを得ませんでした。この状況はまずい、広い視野・異なる視点の講演が出来なかった、悔いが残ります。

会員数減少による会費集収入減少の問題は、多くの他 NPO 法人、他団体、の共通した「悩み」となっています。限られた会費収入を最大限有効に活用する、今後に向けた課題となっています。会費収入の減少により、十分な活動ができないというのは、本末転倒です。このままでは当 NPO は空中分解する、と言う危機感を持って、それに対処する為にも固定費削減を行う必要があると思います。

## 第4回 HD 研修旅行記(1) 小諸城址懐古園

㈱想設計 石川健人

NPO 住まいのホームドクター／設計者の会の研修旅行に今回で3年連続3回目の参加をさせていただきました。そして初めてのレポートとなった場所は、最初に立ち寄った小諸城址懐古園となりました。

当日は、花見シーズンと重なり渋滞が予想されましたが、思いの外スムーズに目的地に到着。事前情報にて「日本さくら名所100選」に選定されている事を知り、まっ先にサクラを見に行きたい気持ち



本紙バックナンバーは当会のホームページ<http://www.sumaidoctor.or.jp> からご覧いただけます

を抑え、入口（三の門）から順に廻ることにします。

まず、最初に姿を現すのが藤村記念館。藤村記念館と言えば中津川市馬籠の生家後にある記念館を思い浮かべる人が多いと思います。ここ小諸にある記念館は、島崎藤村がこの地で6年間過ごした時期のものを中心に展示してあります。建物の設計は、豊田市美術館、葛西臨海公園展望広場レストランなどを設計した「谷口吉生」の父親の「谷口吉郎」です。

藤村記念館を出て奥へ進むと、左手に石垣が見えて来ます。すると上の方から声が聞こえてくるので上を見上げると、同メンバー数人が手を振っているのではないですか。既に出遅れたようなので急いで石垣の上（天守台）を目指します。更に先へ進み左手の広場を見ますと、満開のサクラ達が出迎えてくれます。「日本さくら名所100選」納得の景色です。ここ小諸のサクラ景色はこれだけでは無いことは石

垣に登ってから知ることとなります。石垣の上から満開のサクラを俯瞰する景色は、山頂から雲を通して街を見るように、自分があたかも浮遊した感覚で眼下のサクラを北アルプス、千曲川をバックに堪能でき、とても贅沢な時間を過ごす事が出来ました。

この時点で時間がかかなり少なくなり、足早に小山敬三美術館へ向かいます。この建物の設計は、「村野藤吾」であります。懐古園の雑木林、小山敬三作品との融合を目指し曲線が多く使われた建物です。林をぐるっと回ってエントランスへのアプローチ、千曲川への開口の切り方、小便器横の小窓の切り方などとても参考になる建物でした。やはり、雑誌などで見るだけでは感じられない、実際に見て触った生の感覚を大切に、今後に生かして行ければと改めて感じました。

## 第4回 HD 研修旅行記(2)布引観音

理事 石井隆司

布引観音は布引山中にあります。山道の参道を登る途中には滝や牛馬の形をした岩、木彫り仏像など、多くの見所があります。10分ほど登ると古い山門(仁王門)が見えて来ます。この山門の真上にそびえたつ崖に観音堂があり、ここから見上げる姿は京都清水寺にも喩えられるそうです。参道を更に数分登ると寺務所へ到着、ここからの観音堂が一番綺麗に見えます。



寺務所から観音堂へ向かう途中には岸壁をくり抜い

た洞窟があり、洞窟を抜け少し進むと目の前に真紅の色鮮やかな観音堂が見えてきます。布引観音の伝説の元となっている観音様はこの観音堂の中に安置されています。観音堂の奥には更に道が続いており、現在は立ち入り禁止になっていましたが、山頂へと続く登山道になっている様です。

ここは通称「布引観音」といわれていますが、「天台宗布引山釈尊寺」が正式な名称です。創建年代は、神亀元年（724年）、行基によって開かれたと伝えられています。現存の建物は入母屋造、板葺、懸造（舞台造）で棟札により鎌倉時代の正嘉2年（1258年）の造立ということが分かっています。軒下の臺股（かえるまた）や、地長押の下の格狭間（ごうざま）など、細部の形式に鎌倉時代の建築の特色が見られます。観音堂内にある「宮殿」は昭和24年5月に国の重要文化財に指定されました。

岸壁をくり抜いた洞窟、断崖絶壁の岩肌に造られた建造物、これらを見る度、時の権力者の力、信仰の力の大きさにただただ圧倒されるばかりです。

■相談委員会 4/19 18:00~19:00

無料電話相談の相談内容報告、質疑。電話相談当番。HP「Q&A」改定について。

■研修会 4/19 19:00~20:30

『最新CAD事情～法改正への対応』

講師/福井コンピューター

